

# 派遣後の活動



▲2018（平成 30）12 月 2 日「平和の集い」を終えて @けやきプラザふれあいホール



白山中学校  
森 琥太郎 さん

派遣後、8 月 11 日（土）に行われた我孫子市平和祈念式典に参列し、派遣中学生として紹介されました。そこで派遣の報告を行いました。

また、参加者皆さんの先導として我孫子市の平和都市宣言を読み上げました。

続いて、平和の記念碑に折り鶴を奉納しました。

そして、私たち派遣団を含め、多くの参列者が記念碑に献花を行いました。

僕たちが 3 日間の派遣を通して知った、戦争、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを、これから、たくさんの人たちに伝えていかなくてはならないと、強く感じました。

◆内容

8月11日、我孫子市原爆被爆者の会との共催により、被爆73周年平和祈念式典を開催しました。式典には、約140名の方が参列し、原爆犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、核兵器廃絶と平和を祈りました。

原爆の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さを次の世代に伝えていくため、市では若い世代にも平和事業に携わってもらう工夫をしています。その一環として、平成30年度の平和祈念式典においても、司会進行や原爆詩の朗読を、高校生や大学生が行いました。



▲式典当日の「平和の記念碑」



▲団長から派遣報告



▲市民から寄せられた千羽鶴を奉納



▲司会進行を務める派遣中学生 OB・OG の  
早坂さん（左）・川合さん（右）



▲詩の朗読を務める派遣中学生 OG の  
小谷さん

◆式典のスケジュール

2018（平成30）年8月11日（土）9時30分から

手賀沼公園「平和の記念碑」前にて

<司会進行> 平成24年度長崎派遣中学生 川合 瑞季

平成28年度長崎派遣中学生 早坂 弘宇

時間	内容
9:30	開式
9:32	詩の朗読「コレガ人間ナノデス」（『原爆小景』より 原民喜） 「僕は死ねない」（徳納晃一/高校2年生） <朗読> 我孫子市平和事業推進市民会議委員 平成24年度長崎派遣中学生 小谷 典子
9:37	参列者全員による黙とう
9:39	式辞 主催者/我孫子市原爆被爆者の会 会長 宮田 将則 (代理:副会長 的山 ケイ子) 主催者/我孫子市長 星野 順一郎
	ごあいさつ 来賓/我孫子市議会議長 椎名 幸雄 来賓/千葉県議会議員 今井 勝 来賓/千葉県議会議員 水野 友貴
	紹介 我孫子市議会副議長 江原 俊光 我孫子市副市長 青木 章 我孫子市教育長 倉部 俊治
10:00	広島派遣中学生の紹介、報告 ・派遣団12名の紹介 ・団長あいさつ、報告 布佐中学校 佐藤 優馬
10:10	我孫子市平和都市宣言の読み上げ (派遣中学生による発声後、参列者全員で)
10:15	千羽鶴の奉納 派遣中学生 久寺家中学校 岡村 朝瑚
10:20	献花 (代表~派遣中学生~参列者全員)
10:35	閉式

#### ◆我孫子市原爆被爆者の会 式辞

我孫子市原爆被爆者の会、副会長をやっています「的山ケイ子」です。宮田会長に代わり、ご挨拶申し上げます。

私は長崎で、あと 40 日ぐらいで、この世に生まれ出るといふ胎児の時、母のお腹の中で被爆しました。今年のカレンダーは、1945 年（昭和 20 年）と同じだそうです。原爆投下の 8 月 9 日は、木曜日とわかりました。73 年前の 8 月 11 日は、私が被爆して 3 日目の朝です。放射能に汚染された母の送る栄養を、母の胎盤を通して受け取っていたはずです。よくここまで生き延びてこれたと思います。

私は、つい先日の広島平和記念式典に、ここに並んでいる派遣中学生と一緒に参列してきました。その初めて訪れた猛暑の広島で感じたことをお話しし、ご挨拶に替えたいと思います。

被爆地広島での私の 1 番の感動は、やっぱり原爆ドームの姿でした。見上げているだけで涙がにじみました。

2 番目は、平和記念公園のガイドさんが話してくれた、亡くなられた被爆者「居森清子さん」の話でした。居森さんは、爆心地から 400 メートルにあった本川小学校の、たった 1 人の生き残りの方です。居森さんは奇跡的な、たった 1 人の生き残りでありながら、長い間、被爆体験を話すことがなかったそうです。ところが、居森さんは、自分がガンになり、長く生きられないと感じた時、病を押して被爆体験を話すようになったそうです。

私は、この居森さんの話を聞いたとき、我孫子市原爆被爆者の会の会員の方々も、居森さんと同じように思い始めているかもしれない。今、生き残っている原爆の被爆者、戦争の体験者にも、人生の残り時間が少なくなっています。居森さんと同じように、この人類史上まれな体験を伝えたい、平和に役立ちたいと思いはじめているかもしれません。

私も、被爆者である両親から、きちんと被爆の話を聞くことができませんでした。今は、聞かなかったことを後悔しています。

本日、参列された皆さん。被爆や戦争の直接体験は、まだ聞けます。貴重な体験をされている方を探して話を聞かせてもらってください。よろしくお願いします。

これで、挨拶を終わります。ありがとうございました。

## ◆我孫子市長 式辞

広島と長崎に原子爆弾が投下されたあの忌まわしい日から 73 年目を迎えました。原子爆弾は、一瞬のうちに多くの尊い生命を奪っただけでなく、辛うじて一命をとりとめた人々にも、心身共に生涯消えることのない深い傷を残しました。原爆並びに先の大戦で犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、昨年、核兵器の開発や使用などを法的に禁じる「核兵器禁止条約」の国連での採択に貢献したことが評価され、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞しました。授賞式では被爆者のサーロー節子さんがスピーチを行い、「核兵器はいつどんなときも、私たちが愛するすべての人々を危機にさらしている」「核兵器は必要悪ではなく絶対悪」と訴えました。

唯一の被爆国として、また、平和都市宣言をしている市として、これからも核兵器のない世界が実現されることを強く願い、平和事業を推進してまいります。

全国の被爆者の平均年齢は 81 才を超え、「被爆者がいない時代」を迎える日が確実に近づいています。

今年、14 回目となる広島・長崎への中学生派遣では、市内 6 校の代表生徒 12 名とともに、8 月 5 日から 7 日まで広島市を訪問し、平和記念式典に参列してまいりました。当時の悲惨な記憶と記録を後世へ伝承していくことがより一層必要であること、また、同じ過ちを繰り返さないことが大切であることを、改めて強く思いました。

また、これまでに派遣された中学生が行う「リレー講座」も 4 年目となりました。派遣された中学生たちが見聞きし、感じたことを、さらに若い世代へ伝えるこの取り組みを始めに、様々な取組をとおして、我孫子市の平和への思いは、若い世代へと着実に受け継がれています。

我孫子市は今後も、平和都市宣言をしている市として、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、一歩でも前進するよう、多くの人々と連携の輪を広げていくことに、全力を尽くしてまいります。

結びに、日頃から市の平和事業にご尽力いただいております我孫子市原爆被爆者の会の皆様方のご努力に感謝申し上げますとともに、本日、ここにご臨席の皆様方ますますのご健勝を心からご祈念申し上げまして、式辞といたします。

平成 30 年 8 月 11 日

我孫子市長 星野 順一郎

## 「広島・長崎派遣中学生リレー講座～未来を生きる子どもたちへ～」



▲第二小学校（H30.9.19）



我孫子中学校  
山森 悠生 さん

夏の広島派遣から帰ってきた 2 学期から、私たちは「広島・長崎派遣中学生リレー講座」に参加しています。

このリレー講座は、平成 27 年に、戦後 70 年平和事業としてスタートしたもので、私達より先に、これまでに広島や長崎に派遣され、今では高校生や大学生となった歴代の派遣中学生の先輩たちが市内の全小学校の 6 年生の児童のみなさんに平和をテーマにした授業をするものです。



▲第四小学校 (H30.9.26)



白山中学校  
森 琥太郎 さん

僕は我孫子第四小学校のリレー講座に参加しました。

そこで感じたことは、伝えることの難しさと楽しさです。しかし、自分が広島で体験したことを小学生に話せたことは、貴重な経験でした。

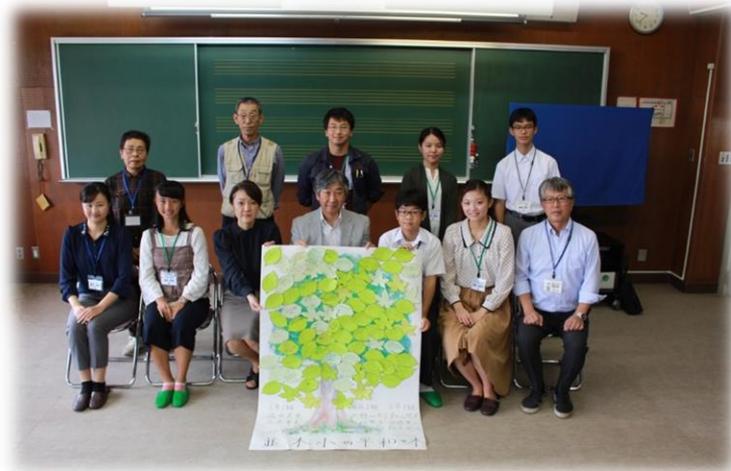


▲布佐南小学校（H30.10.17）



布佐中学校  
佐藤 優馬 さん

私たちは、布佐南小学校のリレー講座に参加しました。小学生でも、平和について興味を持っている子がたくさんいて、みんなで平和を考えるのは大切だと感じました。「平和って何ですか？」と質問をする小学生がいて、これからもより多くの人たちに私たちの思いを伝えていくことが大切だと思いました。



▲並木小学校 (H30.9.29)



久寺家中学校  
松本 周汰 さん

僕は並木小学校のリレー講座に参加しました。

小学生には、平和なことと、平和じゃないことを考えてもらいました。ですが、なかなか意見が出ず、中には、「平和ってなんだろう?」という子もいました。これが現状です。今の世の中は、平和だからこそ、平和について考える人はなかなかいません。もしかしたら、明日は平和じゃないかもしれない。そういう思いでいてほしいと、僕は伝えました。



▲新木小学校 (H30.11.17)



白山中学校  
早乙女 凜 さん

私たちは、新木小学校のリレー講座に参加しました。目を輝かせて講師の話聞く小学生のみなさんの姿に感動し、これからも、たくさんの人たちに、広島で感じたことを伝え続けていきたいと思いました。



▲第一小学校 (H30.6.23)



▲第三小学校 (H30.6.23)



▲布佐小学校 (H30.9.11)



▲高野山小学校 (H30.9.18)



▲湖北台西小学校 (H30.9.29)



▲湖北台東小学校 (H30.12.7)



▲湖北小学校 (H31.2.14)



▲根戸小学校 (H31.1.16)



布佐中学校  
内平 菜々美 さん

悲しみを無数に生んだ原子爆弾が、2 度使用されただけでなく、現在もなお、世界には、約 1 万 6 千発あるといわれています。

しかも、広島に投下された原爆の威力をはるかに超える水素爆弾を保有している国があります。現存する世界中の核兵器は、地球上の全ての生命を何度も壊滅させることができる分量と言われています。

しかし、核兵器が人間の手でつくられたものである限り、人間の手によってそれを縮小し廃絶することができないはずがありません。

この世界から戦争、核兵器をなくすために、私たちも何ができるのかを考え、行動に移していきます。

## 平和の集い～我孫子から平和を願う～

平成 30 年 12 月 2 日（日）

### ◆事前練習 平成 30 年 11 月 17 日（土）・12 月 1 日（土）

12 月 2 日の「平和の集い」での派遣報告に向け、派遣中学生は土曜日に集まり、発表内容の打ち合わせや練習を行いました。

打合せでは、自分たちが広島で見て・聞いて・感じたことを振り返りながら、来場する市民の皆さんに、どのようにしたら自分たちの気持ちを伝えられるかを考えました。



◆当日

**第 1 部 広島派遣中学生による報告**

12月2日（日）に、けやきプラザ2階ふれあいホールで、「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。平和の集いには約200人が来場し、8月に広島に派遣された中学生による派遣報告などに耳を傾けました。

また、平和の集いと併せて、11月21日（水）から12月2日（日）まで、「平和の集い展」を開催しました。けやきプラザ2階の第1ギャラリーでは、「派遣中学生の派遣の感想」、第2ギャラリーでは広島平和記念資料館から借用した「高校生が描いた原爆の絵」を展示しました。また、アビシルベでは、平和事業の取り組みを紹介する展示を行いました。



## 第2部 中央学院大学「平和学」川久保教授による講演、パネルディスカッション

第2部の前半では、中央学院大学で「平和学」を教えている川久保文紀教授による講演が行われました。講演では、「平和学」という学問の歴史と概要の紹介がありました。

後半では、中央学院大学で平和学を学んだ経験のある大学生2名と、歴代の派遣中学生2名がパネリストとして登壇し、私たちが生きるこの世界にどんな関心を抱き、どのような取組をしていきたいのかを語ってくれました。

### <登壇者>

- ・中央学院大学 法学部教授 川久保文紀 氏（現代政治学、国際関係専門）
- ・中央学院大学 法学部3年 金井翼都（かない ゆくと）さん（川久保ゼミ）
- ・中央学院大学 法学部2年 大兼夏美（おおがね なつみ）さん（平和学受講）
- ・平成24年度長崎派遣中学生（現・大学2年生） 川合 瑞季さん
- ・平成28年度長崎派遣中学生（現・高校1年生） 早坂 弘宇さん



### 第3部 我孫子中学校演劇部「長袖の夏」

「長袖のブラウス」を通して、原爆が人の心に刻み付けた苦しみを学んでいく、という劇を、我孫子中学校演劇部の皆さんが上演しました。

= <あらすじ> =

中学校の校長室で、生徒会役員の女子生徒たちが校長先生に叱られている。  
理由は、校則違反。

「いまどき夏服が長袖という規則は変えた方がいい！」という生徒たちに、校長先生は戦後まもなくの頃、同じように生徒会が長袖廃止を求めようとしていた、と語る。  
生徒たちは、校長先生の話から、何を学び、何を考えていくのか…。

=

